



2017年 冬号

URL : <http://www.karashi.net/>

## 人生は「ありがとう」に気づく旅

クリスマスを抑えた 11 月後半の米国は「感謝祭」を祝うため、どの空港も大混雑です。遠くに離れている家族や親しい者たちが共に集まり、典型的な七面鳥やディナーで食卓を囲み、お互いに感謝し合う習慣があるからです。日本では、戦前には飛鳥時代に起源をもつといわれている収穫感謝のための「新嘗祭」というものがありましたが、戦後は 11 月 23 日を「勤労感謝の日」と定め、国民の祝日として祝われています。

人が幸せに生き、周りの方々と仲良く生きていくために「感謝」は必要不可欠なものです。「あたり前」と思ってきたことにまず感謝を始めることが大切です。あたり前のことがあたり前でなくなった時、人はあたり前のことをありがたく思うようになるからです。「もっと早く感謝しておけば良かった。遅すぎた。」とすることがないようにしたいものです。

心理学者の研究でも、感謝の気持ちを毎日 5 つ書き出すだけで確実に生活が好転することが実証されていますし、医学的にも「感謝」を思い浮かべた時の脳画像を fMRI で計測すると癒された状態が確認されています。

人を創造なさったお方は、私たちが「感謝」に生きることを意図されました。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあつて神があなたがたに望んでおられることです。」人は「感謝」に生きる時に幸せを感じるように、創造主によって創られているのです。

私たちが罪と死の奴隷状態から救い出し、人間本来の感謝の生き方を取り戻させてくださった神の子羊としてのイエス・キリストの誕生を祝うクリスマスが近づいています。感謝の原点であるお方に目を注ぎつつ、毎日を感謝の祭典として過ごさせていただきたいものです。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

\* FVIの働きは皆さまからのご支援で支えられているカタリストによって担われています。献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。